

〈神経生理学教室〉

神経生理学教室です。メンバーからの近況をお送りします。

田中真樹（教授）

来年2022年は当教室の前身の「生理学第二講座」が開講して100周年を迎えます。今も昔もこの教室はシステム神経生理学の研究の場となっていますが、対象とするテーマはその時々で変化してきました。この20年ほどは、行動選択、時間知覚、作業記憶、注意などの脳内メカニズムを非ヒト霊長類を対象に調べています。今後は、様々な高次脳機能を抽出するための行動課題の開発に加え、多点電極による領域間の相関解析や分子ツールを用いた機能介入、機械学習によるデータ解析などが重要になってくると思われます。ぜひ、若く柔軟な頭脳でこの領域に挑戦していただきたいと思います。

さて、今年もコロナ禍で何かと制限の多い一年となりましたが、みな目標に向かって頑張ってきました。3月には**亀田**院生と**松山**院生が大学院を修了して医学博士となり、4月からはそれぞれ当教室の助教と市中病院の研修医となりました。同時に**竹谷**助教が長年思い描いていた起業を実現するために退職し、経営者として新たな道を歩み始めました。また、この10月には研究補助員の**在原**さんが新たにメンバーに加わりました。現在、当教室には教員3名、大学院生3名、研究補助員2名、事務補助員1名が在籍しており、これに加えて日常的に実験やセミナーに参加している学部生が数名います。それぞれ着実に研究成果もあがりつつあり、**澤頭**院生と学部5年の**土田**君が今年度の音羽賞を受賞しました。来年も引

き続き、教室内で行われている研究に大きな進展があるものと期待しています。

私生活では、今年はコロナ禍もあって目立った釣果もなく、シーズン終盤の秋アジに望みを託すのみとなりました。春に道北でイトウが釣れることを最近知ってしまいました。

岡田研一（助教）

家に帰ると娘がドキンちゃんの歌を歌っています。「なるべく楽しく暮らしたい お金はたくさんあるのがいい 美味しいものを食べたい し 遊んで毎日暮らしたい♪」2歳です。

亀田将史（助教）

10年間の学生生活を終え、北大11年目になりました。今年は大学構内でリスをよく見かける1年でした。観光客が少なかったからでしょうか。

鈴木真理（事務補助員）

緊急事態宣言が解除され、キャンパスのテニスコートや弓道場に賑やかな声が戻ってきて、とても嬉しいです。若い人達のためにも、コロナの最終収束を願う毎日です。私生活では、健康のためにスイミングを始めました。浮き輪のようなお腹が少しでも凹むように頑張ります。

宮口尚絵（技術補助員）

健康診断でいつからかピロリ菌を育てていたことが判明しました。除菌期間、禁酒に耐える

自信がありません。

在原百合子（技術補助員）

10月から補助員として入りました。短い間ですがお世話になります。今年は十数年ぶりに北海道の冬を体験するのでツルツル路面が心配です。

澤頭亮（博士4年）

博士課程3年次に、行動薬理実験の論文をなんとかパブリッシュすることができました。それを契機に、複数の学会で受賞もすることができ、非常に励みになっています。実力もいまだまだ未熟者ですが、**田中**先生はじめ教室の皆様のサポートがあり、下駄を履かせてもらっていると日々感じています。まもなく大学院卒業となりますが、もうしばらく研究生生活を続けたいと考えています。兎にも角にもこのようなわがままを受け入れてくれる家族には感謝しています。

李☒（博士2年）

It is uplifting to see seagulls glittering in the sun. I hope birds survive the dead of winter against seemingly insurmountable odds.

新川幸一郎（博士2年）

大学院生となってから早くも二年目となり、研究の困難さを日々感じています。ワクワクン接種の医師派遣によって、予想だにしない形で医師としての仕事を経験したことで、臨床上に

行った同級生たちの毎日を想像したり、あるいは、少年漫画の主人公たちの指導者世代の年齢になっていたことに気が付いたり、人生について考えるような機会が増えたような気がします。早く今の仕事を形にできるよう、体調に気を付けながら頑張りたいです。

土田直司（5年）

本年9月28日に音羽賞を拝受いたしました。誠に光栄に存じ、今後とも努力していく所存です。神経生理学教室では抄読会に参加しはじめた気がつけば3年たちました。最近は学部生の輪読会（別途記載）のほか、当研究室博士課程の新川さんたちとの勉強会を行うなど、楽しく過ごしております。また5年生に進級・卒業試験を経てコア科実習がはじまり、医療の面白さと大変さが理解できつつあり、大変勉強になる日々です。

菅原ひかり（4年）

教室に顔を出させていただくようになって1年が経ちました。抄読会の内容を少しは理解できようになったかなと思います。BMIに興味があるので勉強していければと思います。

安部楓（2年）

土塊より 掬ひあげたる 一輪草

杉尾凌虎（2年）

寿司屋の見習いに自分の姿を重ねます。早く一人前になれるように頑張ります。

井原達夫（小樽市立病院神経内科）

セミナーへの聴講参加を始めてからかなり年数が経ちました。それでも毎回聞くごとに個別の論文テーマの内容はもとより厳密さの要求される神経科学の広範さ、奥深さについての印象を新たにしています。印象から少しでも理解に近づきたいと思いながらも知見の進歩についていくことの難しさをも思い知らされています。神経を目指す人間にとって強固な基盤になることも認識しているので気力が続く限り継続したいと思います。

行動制限のある生活にも慣れてきてしまいました。果たして来春には、研究室の皆でキャンパスでジンギスカンができるでしょうか。

（文責：岡田）